

2026 年 10 月 19 日
日本船主協会 海務部

派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向け出港

～ 派遣海賊対処行動水上部隊（第 55 次隊）出国行事の様様 ～

ソマリア沖・アデン湾に赴く第 55 次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が 10 月 17 日(土)に長崎県佐世保市において開催され、護衛艦「きりさめ」が出港した。

小寺佑一艦長が指揮を執る「きりさめ」には小寺艦長以下 183 名（その他、第 55 次ソマリア周辺海域派遣捜査隊 本田雅晴隊長以下海上保安官 8 名を含む）が乗り組み、現在活動中の第 54 次隊の「たかなみ」と交代する。同艦は本任務へ 4 度目の派遣となり、中東地域における情報収集活動も兼務する。

式典では、宮崎紀彦 統合作戦司令部後方運用部長が、「海賊対処行動および情報収集活動は、国際社会の平和と安定に貢献する極めて重要な任務で、国際社会から高い信頼と評価を得ている。任務完遂と無事の帰国を祈念する」との俵千城 統合作戦司令官の訓辞を代読した。

続いて、大町克士 自衛艦隊司令官が、「現在の中東情勢は 2 月末に生じたイランをめぐる戦闘の影響が続いており、ホルムズ海峡の通航の安全は十分に確保されておらず、今後の情勢は予測しがたい。また、海賊事象も今年に入って大きく増加しており、イエメンやソマリア沖でハイジャック事案が複数生起している。アデン湾はアジアと欧州を結ぶ海上交通の要衝であり、海賊対処行動・情報収集活動はわが国の海上交通の安全確保に直結するのみならず、自由で開かれたインド太平洋の実現に寄与するもの。その成果については、日本船主協会はもとより、高い評価と多くの期待が国内外から寄せられている。任務の完遂、無事の帰国、そして元気な姿での再会を祈念する」と訓示した。

また、岩川勝 海上保安庁参事官が、「国際海上物流の要衝であるソマリア沖・アデン湾におけるわが国の海賊対処行動は長きにわたり、日本関係船舶のみならず、あらゆる国籍の船舶および乗組員の安全を確保し、国内をはじめ国際社会からも高い評価を受けている。ソマリア沖・アデン湾では海賊等事案が増加傾向であり、今年も 10 件の事案を確認するなど予断を許さず、中東情勢も不安定な中、様々な苦労があることと思う。しかしながら、優れた能力と旺盛な士気を以って、最高のパフォーマンスを発揮してくれるものと確信している」と、隊員を激励した。

当協会から長澤会長代理として出席した飯野海運株式会社 大谷祐介 代表取締役社長（当協会 海上安全委員長）より「商船の安全運航へのご支援を宜しくお願い致します！」と任務に赴く乗員に想いを伝えた。

最後に、小寺艦長が、「護衛艦きりさめ、ただいまから出国します！」と報告し、隊員のご家族や来賓をはじめとする式典参加者からの盛大な拍手と音楽隊の演奏の下、乗組員一同が意気揚々と乗艦し、出航の合図を経て、任務に向け出発した。参加者一同は好天の岸壁から、海賊対処行動に赴く「きりさめ」の安全な航海と乗員の無事を祈りつつ、その雄姿を見送った。

当協会からは篠原康弘 理事長をはじめ、平尾真二 常務理事、飯野海運株式会社 杉山直弥 海務安全課長、川崎汽船株式会社 三好康之 安全運航チーム長、株式会社商船三井 米田輝希 海務ユニット長、日本郵船株式会社 増富聡司 海務グループ長代理が出席。国際船員労務協会からは東平博樹、野口貴弘 両事務局次長が、全日本海員組合からは大山浩邦 国際局外航部 部長らが出席した。

（海務部）

出国行事の様様



小寺艦長と大谷社長



訓辞を代読する宮崎後方運用部長



訓示する大町自衛艦隊司令官



岩川参事官による激励挨拶



出港報告する小寺艦長



想いを伝える大谷社長



「きりさめ」を見送る参加者たち



式典に臨む「きりさめ」乗員一同



参加した海運関係者一同